

令和3年度全国学力・学習状況調査結果の報告

会津若松市教育委員会

1 全国学力・学習状況調査の結果の概要

(1) 調査に関する概要

実施日	令和3年5月27日(木)	
実施人数(実施校数)	917名(19校)	883名(11校)
調査学年	小学校6年生 義務教育学校6年生	中学校3年生 義務教育学校9年生
調査教科	小学校:国語、算数	中学校:国語、数学
その他	質問紙調査(児童生徒対象・学校対象)	

(2) 教科に関する調査結果の概要(平均正答率)

		会津若松市	会津	福島県	全国
小学校6年生	国語	66	65	64	64.7
	算数	69	68	67	70.2

- ・国語については、全国平均をやや上回り、県平均を上回りました。
- ・算数については、県平均を上回りましたが、全国平均をやや下回りました。

		会津若松市	会津	福島県	全国
中学校3年生	国語	64	63	65	64.6
	数学	51	50	55	57.2

- ・国語については、全国平均とほぼ同じでしたが、県平均をやや下回りました。
- ・数学については、全国及び県平均を下回りました。

【参考】全国平均と比較した結果の推移

	教科	H28	H29	H30	R1	R2	R3
小学校6年生	国語	98.8	102.0	100.5	101.9	中止	102.0
	算数	98.1	104.4	101.7	94.6		98.3
	2教科計	98.4	103.2	101.1	98.2		100.1

	教科	H28	H29	H30	R1	R2	R3
中学校3年生	国語	97.3	100.3	96.1	96.2	中止	99.1
	数学	91.9	94.8	92.0	93.6		89.2
	2教科計	95.0	97.9	94.3	95.0		94.4

※ 平成28年度の調査結果を受け、本市の「あいづっこ学力向上推進計画」が策定されていることから、平成28年度からの結果の推移を掲載しています。

※ 全国平均を100としています。数字が100より大きい場合は全国平均を上回っており、小さい場合は全国平均を下回っています。

○各小・中学校及び義務教育学校の結果について

今回の公表にあたり、市の平均正答率に加え、本市市立学校の教科における調査について、全国の平均正答率を基準とした結果を学校数で公表いたします。

公表内容は、学校の序列化を意図したものではなく、共有されるべき大切な情報の一つとして市民の皆様公表するものです。

市民の皆様には、今回の公表内容に加え、各学校から提供される情報（学校だよりやHP等）をご覧くださいませようをお願いいたします。

本市は、会津域内の平均正答率を小学校・中学校ともに上回っており、会津域内の学力向上も合わせて推進する役割を担っていると認識しております。

その一方で、全国の平均正答率を下回っている教科があることも課題として認識しております。今回公表します調査結果は、これまでの会津若松市の学校教育における取組の結果であると受け止め、今後の対策や施策へ反映してまいりたいと考えておりますので、御理解と御支援をいただきますよう、お願いいたします。

教科に関する調査結果一覧

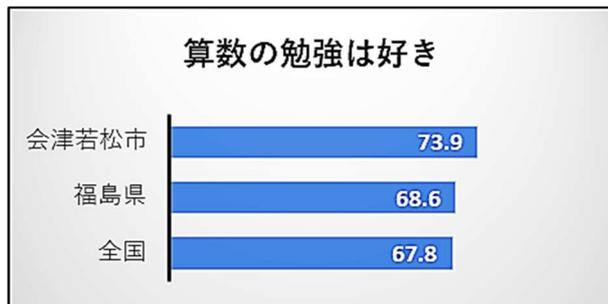
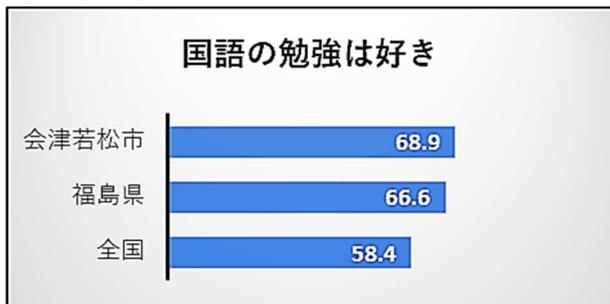
	小学校 義務教育学校前期課程		中学校 義務教育学校後期課程	
	国語	算数	国語	数学
Aグループ 全国平均を上回る (全国平均+2以上)	9校	6校	2校	1校
Bグループ 全国平均をやや上回る (全国平均+1以上+2未満)	2校	3校	3校	0校
Cグループ 全国平均とほぼ同じ (全国平均±1未満)	2校	1校	3校	0校
Dグループ 全国平均をやや下回る (全国平均-1以上-2未満)	1校	1校	1校	2校
Eグループ 全国平均を下回る (全国平均-2以上)	5校	8校	2校	8校

(3) 質問紙調査に関する主な結果

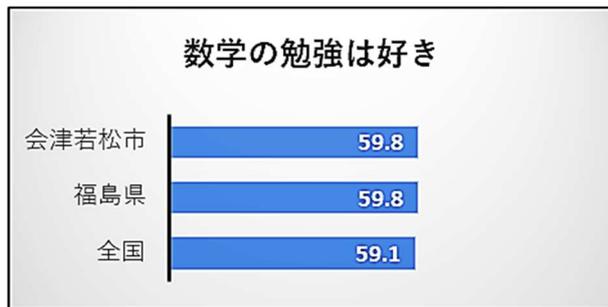
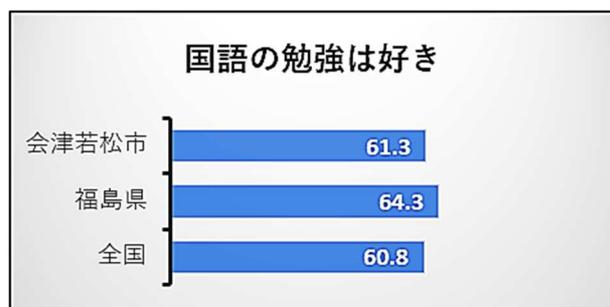
① 「あいづっこ」の強み(よさ)

「勉強は好き」と回答している子どもの割合が、小学校は全国及び県平均を上回り、中学校は全国平均を上回っています。

【小学校】

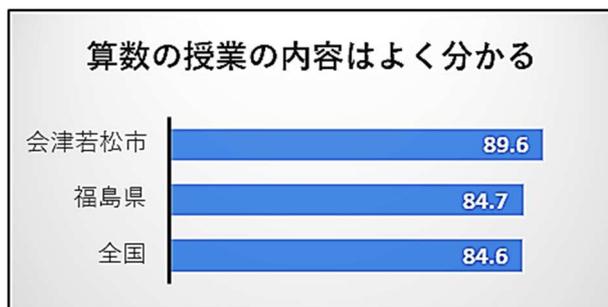
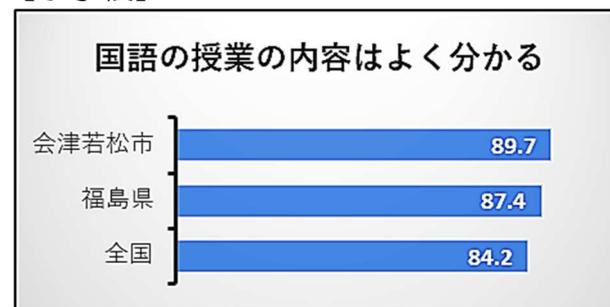


【中学校】

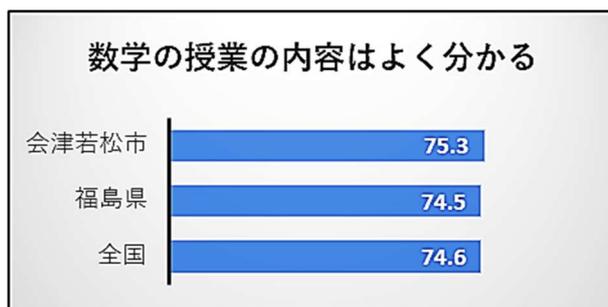
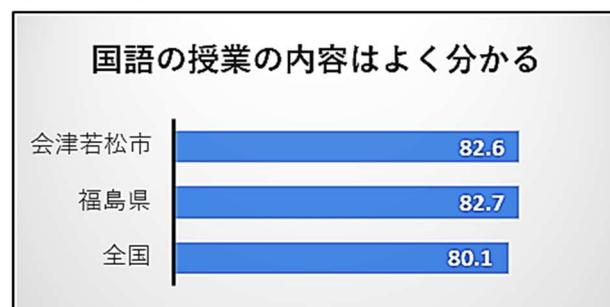


「授業の内容は分かる」と回答している子どもの割合が、小学校は全国及び県平均を上回り、中学校は国語については全国平均を上回りました。数学については全国及び県平均を上回っている一方で、教科に関する調査結果に課題がありました。

【小学校】



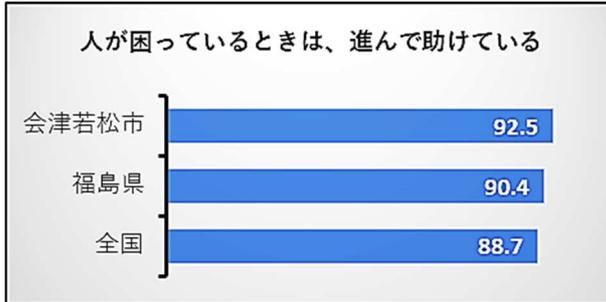
【中学校】



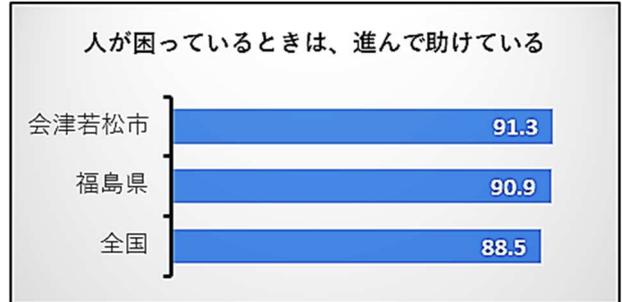
「人が困っているときは、進んで助けている」と回答している子どもの割合が、全国及び県平均を上回っています。

📌 関連：あいづっこ宣言「人をいたわります」

【小学校】



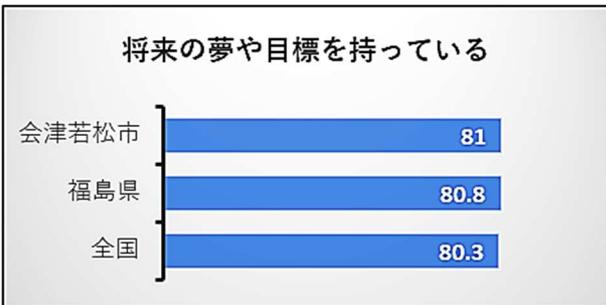
【中学校】



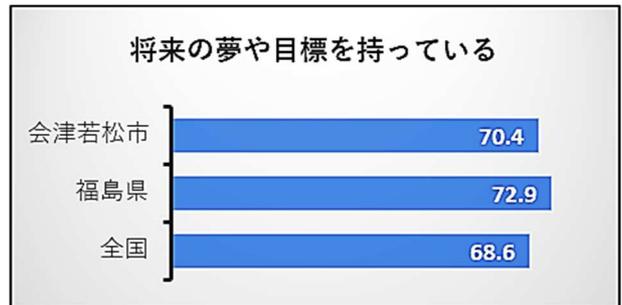
「将来の夢や目標を持っている」と回答している子どもの割合が、小学校については全国及び県平均を上回りました。中学校については全国平均を上回っている一方で県平均を下回り、小学校の結果（81%）を10.6ポイント下回っています。

📌 関連：あいづっこ宣言「夢に向かってがんばります」

【小学校】



【中学校】

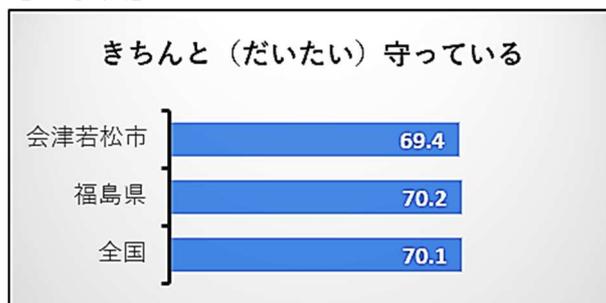


② 「あいづっこ」の課題

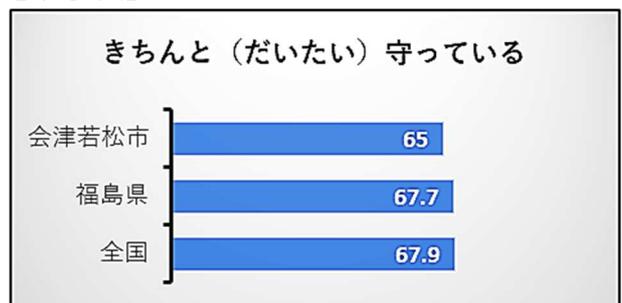
「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている」と回答した子どもの割合が、全国及び県平均を下回り、使い方について「約束はない」と回答した子どもの割合が、全国及び県平均を上回っています。

📌 「あいづっこ『携帯・スマホ等使い方（使わせ方）宣言』を活用し、学校・家庭・地域が一体となった取組が必要です。

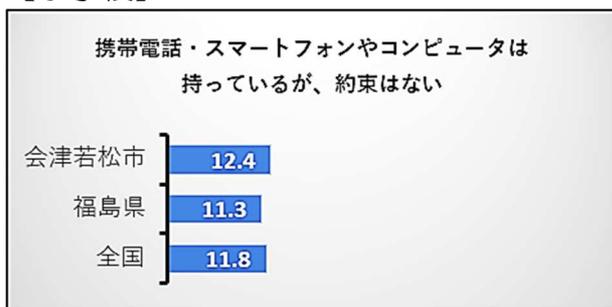
【小学校】



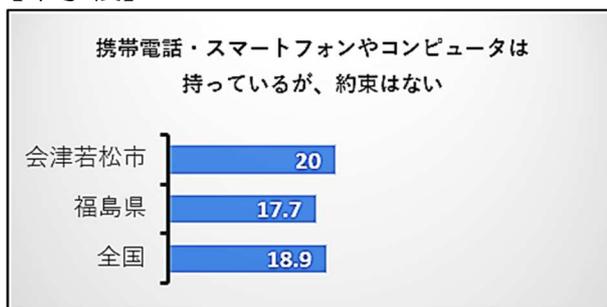
【中学校】



【小学校】



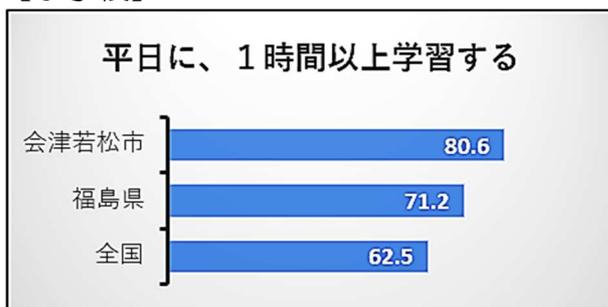
【中学校】



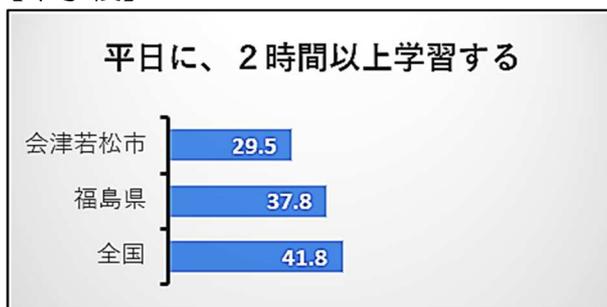
「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に、小学校については本市の目標値である「1時間以上している」と回答した割合が、全国及び県平均を上回っています。中学校については目標値の「2時間以上している」と回答した割合が、全国及び県平均を下回っています。

🏠 小学校と中学校の連携、学校・家庭・地域が一体となった取組が必要です。

【小学校】



【中学校】



2 教科に関する結果

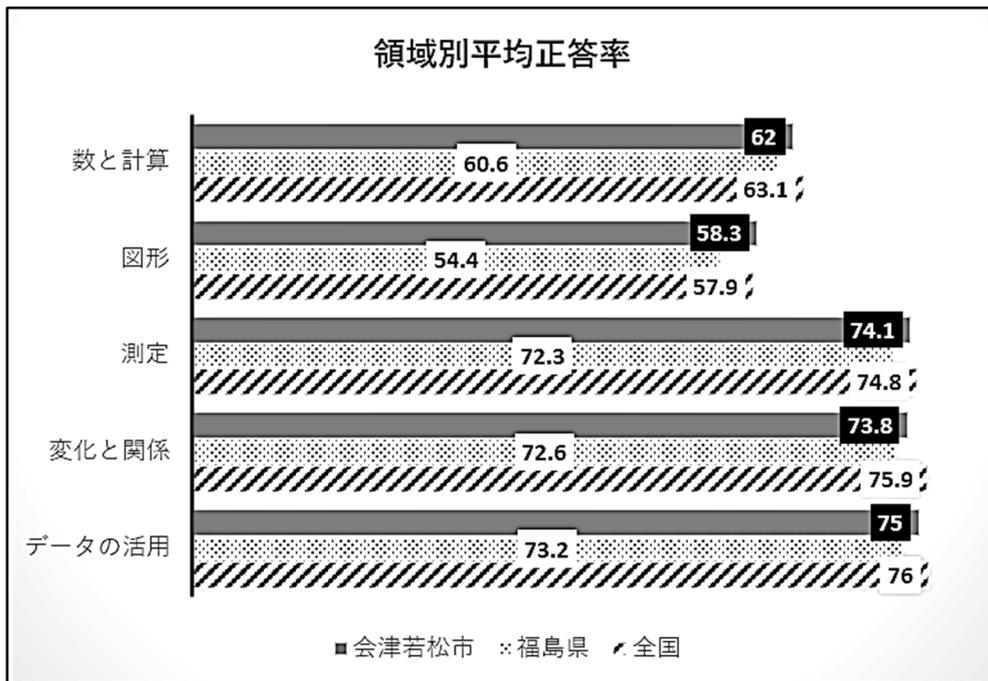
(1) 小学校 国語

平均正答率は66%で、内容別では、「言語の特徴や使い方に関する事項」、「書くこと」の平均正答率は全国及び県平均を上回っており、特に「書くこと」については、全国平均を6ポイント上回っています。一方で、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の平均正答率は全国平均を下回っています。



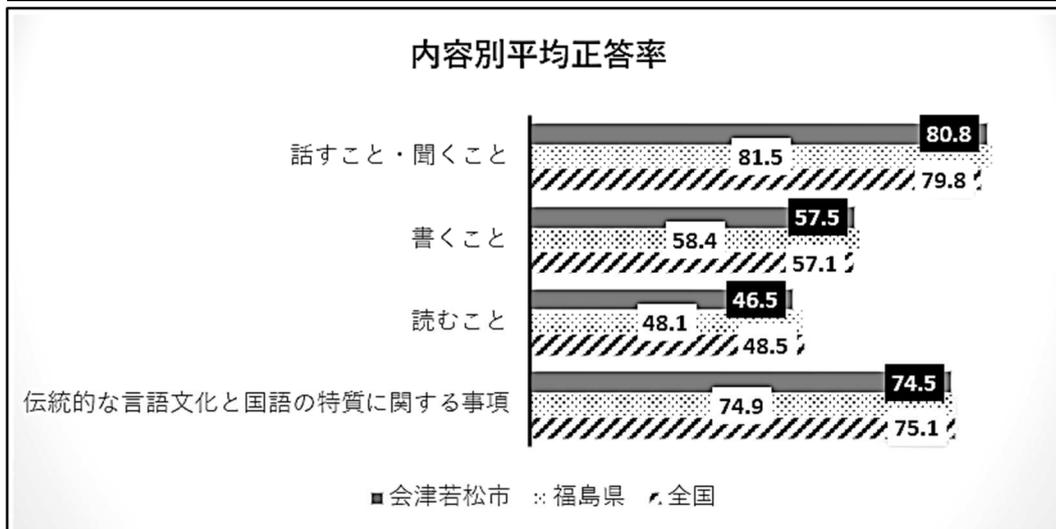
(2) 小学校 算数

平均正答率は69%で、領域別では、「図形」の平均正答率は全国及び県平均を上回りましたが、「数と計算」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の平均正答率は全国平均を下回っています。



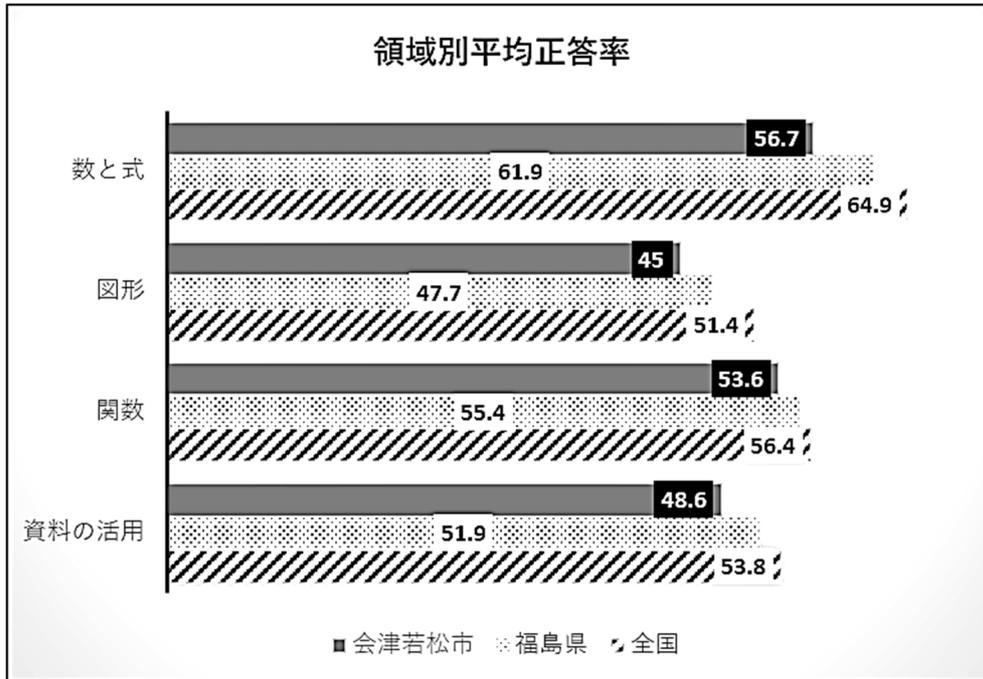
(3) 中学校 国語

平均正答率は64%で、内容別では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の平均正答率は全国平均を上回りましたが、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の平均正答率は全国平均を下回りました。特に、「読むこと」については、全国平均より2ポイント下回りました。



(4) 中学校 数学

平均正答率は51%で、全ての領域において全国及び県平均を下回りました。特に、「数と式」の平均正答率は全国より8.2ポイント、「図形」の平均正答率は全国より6.4ポイント下回りました。



3 学力向上の対策

(1) 各学校における取組

取組①：子どもたちにとって「分かる授業」を継続し、学習したことが定着するように授業を工夫します。

調査結果から「勉強は好き」「授業の内容は分かる」と回答した児童生徒の割合は、全国平均を上回っていることから、授業で分かったことを確実に定着させるために、さらに「まとめ・振り返り」の時間を工夫して授業改善を行っていきます。

取組②：自校の子どもたちの調査結果について、全教員で分析し、学力向上に向けた取組（計画）を策定・共有し、実践していきます。

授業改善の成果を「活用力育成シート」※1や「チャレンジテスト」※2により確認するなど、学習内容の定着を確認しながら学力向上を進めていきます。

※1「活用力育成シート」

県教育委員会が、小学4年生から中学2年生までを対象に、年2回作成している問題シートで、子どもたちの多様な問題への対応力が育成されるとともに、教員の授業改善に向けた参考資料にもなっている。

※2「チャレンジテスト」

令和元年度から市内全ての小学5年生（算数）、中学2年生（英語）を対象に、例年、1月下旬から2月上旬に実施しているテストで、結果については、子どもたちの学力について実態を把握するとともに、教員の授業改善に生かしている。作成にあたっては、各学校から推薦された教員により行っている。

取組③：よりよい学級集団づくりを行います。

学力向上の土台の一つとなるのが「望ましい人間関係」です。本市で実施している「hyper-QU」※3の結果を全教員で分析し、改善策を策定・実行します。

※3「hyper-QU」

学校生活における子どもたちの満足感や意欲、学級集団の状態等について質問紙によって測定するもので、結果については、いじめや不登校の未然防止、よりよい学級集団づくりのために活用している。

(2) 教育委員会における取組

取組①：授業改善のための指導助言を行います。

県教育委員会と連携し、指導主事の学校訪問をとおり、授業内容の定着及び習熟を図るための授業改善や各学校の課題解決に向けた指導助言を行います。

取組②：「チャレンジテスト」の作成・活用及び「活用力育成シート」活用のための助言を行います。

「チャレンジテスト」について、作成に対する助言をしながら、教員と指導主事が一緒に問題を作ります。また、各学校において、効果的な活用が図られるように助言していきます。「活用力育成シート」について、授業等における確実な実施を促し、子どもたちの学力向上につながるように助言をしていきます。

取組③：各学校の先生たちにとって効果的な研修会を開催します。

各学校のニーズに沿った内容の研修会等を実施し、各学校の課題解決を図ります。また、教育委員会で定期的に発行している「学校教育課だより」を継続して発行し、市内学校の効果的な取組について紹介していきます。

(3) 家庭・地域における取組

取組①：「あいづっこ『携帯・スマホ等使い方・使わせ方』宣言」を活用した取組を推進します。

家庭における携帯電話やスマートフォン等の使い方について、「あいづっこ『携帯・スマホ等の使い方・使わせ方』宣言」を活用し、ルールづくり及び見直し等を推進していきます。

取組②：学校運営協議会による課題解決を進め、「地域総ぐるみで子どもたちを育てる環境づくり」に取り組んでいきます。

学校運営協議会委員の多様な人材の英知を結集し、学力向上に向けた取組を含め、各学校における課題解決に向けた協議を進めていきます。

「令和3年度 全国学力・学習状況調査」の問題については

・ <https://www.nier.go.jp/21chousa/21chousa.htm>

「令和3年度 全国学力・学習状況調査」の結果については

・ <https://www.nier.go.jp/21chousakekkahoukou/>

をご覧ください。

(国立教育政策研究所ホームページ)

令和3年度全国学力・学習状況調査結果【詳細】

1 各教科に関する分析

- ：全国平均正答率及び県平均正答率より高い問題
- △：全国平均正答率及び県平均正答率よりやや高い問題
- ▲：全国平均正答率及び県平均正答率よりやや低い問題
- ：全国平均正答率及び県平均正答率より低い問題

(1) 小学校6年生：国語（問題の趣旨）

- 自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える。
- 目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。
- 文の中における主語と述語との関係を捉える。
- △ 文の中における修飾と被修飾との関係を捉える。

(2) 小学校6年生：算数

- △ 二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる。
- △ 速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる。
- △ 三角形の面積の求め方について理解している。
- △ 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる。
- △ データを二次元の表に分類整理することができる。
- △ 小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準値を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる。
- ▲ 示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる。
- ▲ 商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算することができる。
- ▲ 条件に合う時刻を求めることができる。

(3) 中学校3年生：国語

- △ 文脈の中における語句の意味を理解する。
- △ 相手や場に応じて敬語を適切に使う。
- ▲ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える。
- ▲ 場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する。
- ▲ 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する。
- 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ。
- ▲ 事象や行為などを表す多様な語句について理解する。

(4) 中学校3年生：数学

- 整式の加法と減法の計算ができる。
- 具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる。
- 扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している。
- ▲ 関数の意味を理解している。
- 与えられたデータから中央値を求めることができる。
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。
- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。
- 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる。
- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
- ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる。
- 相対度数の必要性和意味を理解している。
- データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
- ▲ 平行四辺形になるための条件を用いて、四角形は平行四辺形になることの理由を説明することができる。
- 錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している。
- ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見出し、それを数学的に表現することができる。

2 児童生徒質問紙に関する分析（肯定的な回答の割合）

（1）国語への関心について

主な質問事項	小学校			中学校		
	会津若松市	福島県	全国	会津若松市	福島県	全国
国語の勉強は好き	68.9	66.6	58.4	61.3	64.3	60.8
国語の勉強は大切だと思う	95.4	94.5	93.2	92.0	93.4	91.6
国語の授業の内容はよく分かる	89.7	87.4	84.2	82.6	82.7	80.1
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つ	94.9	93.4	91.8	88.1	91.0	88.7

（2）算数・数学への関心について

主な質問事項	小学校			中学校		
	会津若松市	福島県	全国	会津若松市	福島県	全国
算数・数学の勉強は好き	73.9	68.6	67.8	59.8	59.8	59.1
算数・数学の勉強は大切だと思う	93.9	94.0	93.8	83.5	85.7	84.1
算数・数学の授業の内容はよく分かる	89.6	84.7	84.6	75.3	74.5	74.6
算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つ	93.2	93.1	92.6	75.8	76.7	74.6

（3）規範意識について

主な質問事項	小学校			中学校		
	会津若松市	福島県	全国	会津若松市	福島県	全国
人が困っているときは、進んで助けている	92.5	90.4	88.7	91.3	90.9	88.5
いじめは、どんな理由があってもいけない	96.6	96.5	96.8	95.8	96.0	95.9
人の役に立つ人間になりたい	96.0	95.5	95.5	95.1	95.6	95.0

（4）自己有用感について

主な質問事項	小学校			中学校		
	会津若松市	福島県	全国	会津若松市	福島県	全国
自分には、よいところがある	77.9	75.3	76.9	75.9	76.2	76.2
将来の夢や目標を持っている	81.0	80.8	80.3	70.4	72.9	68.6

（5）生活習慣・学習習慣について

主な質問事項	小学校			中学校		
	会津若松市	福島県	全国	会津若松市	福島県	全国
朝食を毎日食べている	95.4	95.7	94.9	93.7	94.2	92.8
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	86.1	85.6	81.2	84.9	83.7	79.8
毎日、同じくらいの時刻に起きている	92.5	92.5	90.4	94.1	94.5	92.7
家で自分で計画を立てて勉強している	87.3	81.9	74.0	66.8	69.6	63.5

3 学校質問紙に関する分析（肯定的な回答の割合）

（1）小学校

【全国平均及び県平均を上回る主な項目】

- 国語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行った。
- 算数の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行った。
- 前年度までに、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を、計画的に取り入れた。
- 児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。
- 児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている。

【全国平均及び県平均を下回る主な項目】

- 児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている。
- 個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している。
- 学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会などを十分に設けている。
- 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。

（2）中学校

【全国平均及び県平均を上回る主な項目】

- 教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行った。
- 教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行った。
- 国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行った。
- 数学の指導として、前年度までに、観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行った。
- 前年度までに、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を、計画的に取り入れた。

【全国平均及び県平均を下回る主な項目】

- 保護者や地域の人々が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、学校行事の運営などの活動に参加している。
- 保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果があった。
- 生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている。
- 生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。
- 数学の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行った。